

器官解剖学

責任者・コーディネーター	解剖学講座人体発生学分野 人見 次郎 教授		
担当講座・学科(分野)	解剖学講座人体発生学分野、解剖学講座細胞生物学分野、医学教育学講座、解剖学講座機能形態学分野		
担当教員	人見 次郎 教授、佐藤 洋一 教授、齋野 朝幸 教授、磯貝 純夫 准教授、木村 英二 助教、阿久津 仁美 助教		
対象学年	2	区分・時間数	講義 63.0 時間
期間	前期		実習 46.5 時間

・学習方針（講義概要等）

解剖学 Anatomy は、生物を構成する物質（器官・組織・細胞・分子）のある時間軸におけるかたち（構造と構成）を明らかにし、その物質の働きのしくみ（動態・機能）を解析する。すなわち、形態を観察することにより、生物のダイナミクスを考察する学問分野である。解剖学の研究対象はあらゆる生物のあらゆる大きさの構造に及ぶが、器官解剖学では、講義と実習により人体の成り立ち（発生学）と、構成要素である器官（系統解剖学）とその組織（組織学）の正常構造の理解を深めていく。シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。

・教育成果（アウトカム）

病気の成立機転を理解し、適切な治療方法を選択できるようになるためには、いろいろな生命反応がいつ、どこでおきているか理解していなければいけない。そのため、人体の基本構造とその成り立ちを理解し、且つ、器官の構成成分である組織と細胞の正常な形態と機能を知ること不可欠で、それのための基本的知識を、講義、実習、演習を通じて学ぶ。

・到達目標（SBO）

発生学と組織学は、解剖学の柱の分野であり、基礎医学・臨床医学の学習ならびに診療の基盤となることを認識する必要がある。発生学ではヒトの個体発生機構と過程を知ることによって人体の正常構造と先天異常の成り立ちを理解する。組織学では、光学顕微鏡や電子顕微鏡による人体の組織・細胞の正常形態・機能に関する基本的知識を習得する。人体の個々の臓器と系の発生学・組織学をきちんと学修し、それぞれの形態学および機能的知識によって人体の正常構造を統合的に理解すること

で、臨床医学を学習するために必要な基盤的知識と学力を確実に身につけることができる。また、同時に CBT および医師国家試験の合格が到達可能となる。

・ 講義日程

(矢) 西 102 1-B 講義室
(矢) 西 402 4-B 実習室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
4/2	木	2	医学教育学講座	佐藤 洋一 教授	<p>系統解剖学・発生学 1 解剖学総論 体の基本名称</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖学が医学においてどのような位置にあるか、述べるができる。 2. 肉眼解剖学、組織学、系統解剖学、発生学、臨床局所解剖学、細胞生物学が、どのような観点からつくられた学問体系か、述べるができる。 3. 冠状断、矢状断、水平断、近位、遠位の意味を述べるができる。 4. 人体標本の倫理的な取扱注意事項をわきまえた行動ができる。
4/7	火	3	人体発生学分野	人見 次郎 教授	<p>組織学 1 リンパ系器官 脾臓と扁桃；血液の免疫</p>
4/9	木	3	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	<p>組織学 2 血液と血液細胞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 結合組織という観点から末梢血を理解し、血球の種類と役割を説明できる。 2. リンパと血液の組成・役割の違いを説明できる。血液幹細胞の分化過程を理解している。 3. 造血機能を営む部位を述べるができる。 4. 血清と血漿の違いを述べるができる。 5. 血塗沫標本の顕微鏡観察末梢血を構成する細胞群の形態学的特徴を图示できる。 6. 末梢血の血球成分の働きを説明できる。 7. 各血球の機能から、或る疾患にな

					<p>ったときの血球数の増減を類推できる。</p> <p>8. 骨髄の主な細胞を同定できる。</p> <p>9. 造血機能を営む部位を述べることができる。</p>
4/14	火	1	人体発生学分野	人見 次郎 教授	<p>系統解剖・発生学 2 初期発生</p> <p>1. 受精から着床に至る経路を述べることができる。</p> <p>2. 胚盤胞の構成要素を述べることができる。</p> <p>3. 二層性胚盤と三相性胚盤の構成を説明できる。</p> <p>4. 胎盤と胎児を包む膜の構造を説明できる。</p> <p>5. 体軸の決定の過程を説明できる。</p>
4/14	火	2	人体発生学分野	人見 次郎 教授	<p>系統解剖学・発生学 3 循環器系肉 眼解剖と発生 1</p> <p>1. 心房壁と心室壁の特徴とその違いを説明できる。</p> <p>2. 房室弁と動脈弁の構造的違いを説明できる。</p> <p>3. 刺激伝導系の経路について説明できる。</p> <p>4. 冠状動脈・静脈の起始・走行・分布について説明できる。</p> <p>5. 心臓神経の起始・走行・分布を説明できる。</p>
4/14	火	3	人体発生学分野	木村 英二 助教	<p>組織学 3 心臓の組織学</p> <p>1. 刺激伝導系 2. 心臓の血管系</p>
4/16	木	2	医学教育学講座	佐藤 洋一 教授	<p>系統解剖学・発生学 4 頭頸部臓器 構造と発生 1 鰓弓</p> <p>1. 頭頸部と体幹部の違いについて述べることができる。</p> <p>2. 鰓弓の進化的起源について述べる ことができる。</p> <p>3. 鰓弓を構成する構造物と細胞の由来を 列挙することができる。</p> <p>4. 鰓弓に由来する器官とその起源を 述べる ことができる。</p> <p>5. 鰓弓由来の器官と支配神経の関係 について述べる ことができる。</p> <p>6. 鰓弓の先天性異常について述べる ことができる。</p>
4/16	木	3	人体発生学分野	人見 次郎 教授	<p>組織学 4 消化器系 I (口腔)</p> <p>1. 口唇 2. 舌 3. 唾液腺 4. 咽頭</p>

					5. 口腔の支配神経
4/21	火	1	人体発生学分野	人見 次郎 教授	系統解剖学・発生学 5 体幹・四肢の発生と脊髄神経
4/21	火	2	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	系統解剖学・発生学 6 中枢神経系の発生 1. 中枢神経の発生過程とその異常から起こる疾患について概説できる。 2. 脳脊髄液の産生と循環に関わる構造と機能について説明できる。 3. 脳血管系の構成、種類、機能及びその発生異常について説明できる。
4/21	火	3	人体発生学分野	木村 英二 助教	組織学 5 消化器系Ⅱ 歯の組織学
4/23	木	2	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	系統解剖学・発生学 7 頭頸部臓器構造と発生 2 脳下垂体、甲状腺、他 1. 頭蓋、顔面、舌の形態形成について述べる事ができる。 2. 脳下垂体、副甲状腺、甲状腺の発生過程について述べる事ができる。 3. 脳下垂体と甲状腺の機能を列挙する事ができる。 4. 顔面、舌、脳下垂体や甲状腺等の先天性異常について述べる事ができる。
4/23	木	3	細胞生物学分野	阿久津 仁美 助教	組織学 6 呼吸器系Ⅰ 鼻腔・喉頭・気管 1. 鼻腔と副鼻腔 2. 咽頭・喉頭 3. 気管と気管支
4/28	火	1	医学教育学講座	佐藤 洋一 教授	系統解剖学・発生学 8 消化器系肉眼解剖と発生 1 口腔と咽頭 1. 口腔内構造（歯、舌、唾液腺など）の構造と機能を説明できる。 2. 咽頭、食道の構造と機能を説明できる。
4/28	火	2	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	系統解剖学・発生学 9 呼吸器系肉眼解剖と発生 1. 気道の構造、肺葉、肺区域と肺門の構造を説明できる。 2. 肺の機能血管（肺循環）と栄養血管の特徴を説明できる。 3. 縦隔と胸膜腔の構造を説明でき

					る。 4. 呼吸器の発生が説明できる。
4/28	火	3	細胞生物学分野	阿久津 仁美 助教	組織学 7 呼吸器系Ⅱ (肺) 1. 肺胞の構造 2. 肺の血管系 3. 肺のリンパ性組織
5/7	木	2	人体発生学分野	木村 英二 助教	系統解剖学・発生学 10 循環器系肉 眼解剖と発生 2 1. 体循環・肺循環と胎児循環の違い を説明できる。 2. 大動脈弓の枝の起始・走行・分布 と分岐形態の発生学的理由を説明で きる。 3. 腹大動脈の臓側枝の起始・走行・ 分布と分岐形態の発生学的理由を説 明できる。 4. 腹大動脈の外側枝の起始・走行・ 分布と分岐形態の発生学的理由を説 明できる。 5. 頭頸部と四肢の主な動脈を図示 し、分布域を概説できる。
5/12	火	1	人体発生学分野	木村 英二 助教	系統解剖学・発生学 11 循環器系肉 眼解剖と発生 3 1. 主な静脈を図示し、走行経路を概 説できる。 2. 下大静脈とその枝の分岐形態と発 生学的理由を説明できる。 3. 肝門静脈とその枝の分岐形態と発 生学的理由を説明できる。 4. 胸管を経由するリンパの流れを説 明できる。
5/12	火	2	人体発生学分野	人見 次郎 教授	系統解剖学・発生学 12 消化器系肉 眼解剖と発生 2 1. 消化管と付属腺の発生の概要を説 明できる。 2. 腹膜と臓器の関係を説明できる。
5/12	火	3	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	組織学 8 消化器系Ⅲ 上部消化管 1. 食道・胃・十二指腸の構造的な特 徴を列挙できる。 2. 噴門腺と胃底腺, 幽門腺の特徴を 図解できる。 3. 胃の上皮細胞の種類と働きについ て述べることができる。 4. 食道・胃の神経支配について述べ ることができる。

					<p>5. 食道・胃・十二指腸の動脈支配について説明できる。</p> <p>6. 消化管神経叢を同定できる。</p>
5/14	木	2	人体発生学分野	人見 次郎 教授	<p>系統解剖学・発生学 13 消化器系肉眼解剖と発生 3 消化器系の血管支配</p> <p>1. 各消化器官の位置、形態と血管を図示できる。</p> <p>2. 尿生殖膜と肛門の形成過程を説明できる。</p>
5/14	木	3	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	<p>組織学 10 消化器系Ⅳ 下部消化管（小腸と大腸）</p> <p>1. 小腸の上皮細胞の種類と働きについて述べる事ができる。</p> <p>2. GALT が何か、説明できる。</p> <p>3. パネト細胞の存在部位と機能について説明できる。</p> <p>4. 消化管神経叢を同定できる。</p> <p>5. 結腸と小腸の構造的並びに機能的相違を述べる事ができる。</p> <p>6. パイエル板の存在部位について説明できる。</p> <p>7. 結腸の構造の特徴を小腸と比較して述べる事ができる。</p> <p>8. 肛門部の解剖を説明できる。</p>
5/19	火	1	人体発生学分野	磯貝 純夫 准教授	<p>系統解剖学・発生学 14 循環器系肉眼解剖と発生 4 脈管系の発生と破格について</p>
5/19	火	2	人体発生学分野	人見 次郎 教授	<p>系統解剖学・発生学 15 消化器系肉眼解剖と発生 4</p> <p>1. 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能、発生過程を説明できる。</p>
5/19	火	3	細胞生物学分野	阿久津 仁美 助教	<p>組織学 10 消化器系Ⅴ 肝と膵</p> <p>1. 肝臓の構造 2. 胆道系 3. 膵臓（外分泌腺）の構造 4. 肝臓と膵臓の血管系</p>
5/21	木	2	人体発生学分野	人見 次郎 教授	<p>系統解剖学・発生学 16 泌尿生殖器系肉眼解剖と発生 1</p> <p>1. 性腺の発生 2. 腎の発生</p>
5/21	木	3	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	<p>組織学 11 内分泌系Ⅰ（視床下部・下垂体系）</p> <p>1. ホルモンについてその特徴を述べる事ができる。</p>

					<p>2. 内分泌器官に特徴的な毛細血管の形態について説明できる。</p> <p>3. 腺性下垂体と神経性下垂体を区分し、それぞれの構成細胞の機能と形態学的特徴を説明できる。</p> <p>4. 下垂体門脈系を説明できる。</p> <p>5. 下垂体の発生過程を説明できる。</p> <p>6. 神経分泌を説明できる。</p> <p>7. 腺性下垂体と神経性下垂体からそれぞれ分泌されるホルモンについてその機能を説明できる。</p>
5/26	火	3	人体発生学分野	人見 次郎 教授	<p>組織学 12 内分泌系Ⅱ 副腎と甲状腺</p> <p>1. 副腎の構造と血管系</p> <p>2. 甲状腺の構造と血管系</p> <p>3. 上皮小体の構造</p>
5/28	木	2	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	<p>系統解剖学・発生学 17 泌尿生殖器系肉眼解剖と発生 2</p> <p>1. 女性生殖器の形態を図示し、説明を加えることができる。</p> <p>2. 男性生殖器を図示し、説明を加えることができる。</p> <p>3. 泌尿生殖器の発生について概説できる。</p>
5/28	木	3	人体発生学分野	人見 次郎 教授	<p>組織学 13 泌尿器系Ⅰ 腎</p> <p>1. 腎の構造 2. 腎の血管系</p>
6/2	火	1	人体発生学分野 医学教育学講座 細胞生物学分野 人体発生学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 佐藤 洋一 教授 齋野 朝幸 教授 磯貝 純夫 准教授 木村 英二 助教 阿久津 仁美 助教	<p>系統解剖学・発生学 プレテスト (出題範囲; 発生学 1 から 17 まで)</p>
6/2	火	2	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	<p>系統解剖学・発生学 18 泌尿生殖器系肉眼解剖と発生 3.</p> <p>1. 尿管、下部尿路(膀胱、前立腺、尿道)の発生、構造、機能を説明する事ができる。</p> <p>2. 膀胱での蓄尿、排尿機構を説明できる。</p> <p>3. 尿路奇形について説明できる。</p>
6/2	火	3	人体発生学分野	人見 次郎 教授	<p>組織学 14 泌尿器系Ⅱ 尿管・膀胱</p> <p>1. 尿路と膀胱の構造</p>

6/4	木	2	人体発生学分野	人見 次郎 教授	系統解剖学・発生学 19 内分泌の発生学
6/4	木	3	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	組織学 15 男の生殖器Ⅰ 精巣の構造 1. 精巣の微細構造を理解し、曲精細管とその機能単位である精上皮に見られる細胞群の変化の過程（精子発生と精子形成）について説明できる。 2. 血液 - 精巣関門を組織学的に理解できる。 3. 男性ホルモンの分泌とその産生制御機構に関わる細胞の特性を説明できる。 4. 精巣上体の構造と機能について説明できる。
6/9	火	3	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	組織学 16 男の生殖器Ⅱ 精巣付属器・精嚢・前立腺の構造、陰茎の構造 1. 精路を構成する器官（精巣上体、精管）及び付属腺（前立腺、精嚢）の構造と機能について説明できる。 2. 陰茎の組織学的特徴を説明できる。 3. 勃起のメカニズムについて説明できる。
6/11	木	2	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 助教 阿久津 仁美 助教	組織学プレテスト（出題範囲；組織学 1 から 16 まで）
6/11	木	3	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	組織学 17 女の生殖器Ⅰ 1. 卵巣の構造 2. 子宮の構造 3. 卵巣と子宮内膜の周期的変化
6/16	火	3	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	組織学 18 女の生殖器Ⅱ 1. 子宮と胎盤
6/18	木	1	細胞生物学分野	齋野 朝幸 教授	系統解剖学・発生学 20 感覚器系の肉眼解剖と発生 1 1. 視覚器の発生、構造、機能を説明する事ができる。 2. 眼球運動を説明できる。 3. 眼球の知覚を説明できる。

6/18	木	2	人体発生学分野	人見 次郎 教授	系統解剖学・発生学 21 感覚器系の 肉眼解剖と発生 2 1. 平衡器の発生、構造、機能を説明 する事ができる。 2. 鼓室の構造を説明できる。
------	---	---	---------	----------	--

【実習】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
4/2	木	3	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 助教 阿久津 仁美 助教	MCQ 基礎力確認テスト
4/2	木	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 助教 阿久津 仁美 助教	組織学実習 1 基礎組織学の復習
4/7	火	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 助教 阿久津 仁美 助教	組織学実習 2 リンパ性器官 脾臓と扁桃を中心に、リンパ系器官 の構造を観察し、組織の構成と構成 細胞の特徴や分布を図解できるよう にスケッチする。
4/9	木	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 助教 阿久津 仁美 助教	組織学実習 3 血液と骨髄 1. 血液の塗沫標本の作成と観察 2. 骨髄の観察 それぞれ構成細胞を同定し、その特 徴を図解できるようにスケッチす る。
4/14	火	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 助教 阿久津 仁美 助教	組織学実習 4 心臓の解剖学 1. ブタの心臓の外景と内景の観察と スケッチ。血液の流れを理解する。 2. 心臓の刺激伝導系の構成細胞を観 察・同定し、細胞と組織の構造の特 徴を図解できるようにスケッチす る。
4/16	木	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 助教 阿久津 仁美 助教	組織学実習 5 消化器系 I (口腔) 1. 口唇 2. 舌 3. 唾液腺 4. 咽頭 それぞれの組織の構成細胞を観察・ 同定し、細胞と組織の構造の特徴を 図解できるようにスケッチする。

4/21	火	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 助教 阿久津 仁美 助教	組織学実習 6 消化器系Ⅱ 歯の組織の構成細胞を 観察・同定し、細胞と組織の構造の 特徴を図解できるようにスケッチす る。
4/23	木	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 助教 阿久津 仁美 助教	組織学実習 7 呼吸器系Ⅰ 1. 鼻腔と副鼻腔 2. 咽頭・喉頭 3. 気管と気管支 それぞれの組織の構成細胞を観察・ 同定し、細胞と組織の構造の特徴を 図解できるようにスケッチする。
4/28	火	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 助教 阿久津 仁美 助教	組織学実習 8 呼吸器系Ⅱ (肺) 肺胞の構成細胞を 観察・同定し、細胞と組織の構造の 特徴を図解できるようにスケッチす る。その際、血管との関係に注意す る。
5/12	火	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 助教 阿久津 仁美 助教	組織学実習 9 消化器系Ⅲ 1. 食道 2. 胃 3. 十二指腸 それぞれの組織の構成細胞を観察・ 同定し、細胞と組織の構造の特徴を 図解できるようにスケッチする。
5/14	木	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 助教 阿久津 仁美 助教	組織学実習 10 消化器系Ⅳ (小腸と大腸) 1. 小腸の構造 2. 大腸の構造 それぞれの構造の構成細胞を観察・ 同定し、細胞と組織の構造の特徴を 図解できるようにスケッチする。そ の際、血管との関係に注意する。
5/19	火	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 助教 阿久津 仁美 助教	組織学実習 11 消化器系Ⅴ (肝と膵) 1. 肝臓の構造 2. 胆道系 3. 膵臓 (外分泌腺)の構造 それぞれの構造の構成細胞を観察・ 同定し、細胞と組織の構造の特徴を 図解できるようにスケッチする。そ の際、血管との関係に注意する。
5/21	木	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 助教 阿久津 仁美 助教	組織学実習 12 内分泌系Ⅰ (視床下部・下垂体系) 1. 下垂体前葉の構造 2. 下垂体後葉 の構造 3. 松果体の構造 それぞれの構造の構成細胞を観察・

					同定し、細胞と組織の構造の特徴を 図解できるようにスケッチする。そ の際、血管との関係に注意する。
5/26	火	1	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 助教 阿久津 仁美 助教	PBL「発生の異常」事前講義
5/26	火	2	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 助教 阿久津 仁美 助教	PBL「発生の異常」1 SGL
5/26	火	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 助教 阿久津 仁美 助教	組織学実習 13 内分泌系Ⅱ（副腎と甲状腺） 1. 副腎の構造 2. 甲状腺の構造 3. 上皮小体の構造 それぞれの構造の構成細胞を観察・ 同定し、細胞と組織の構造の特徴を 図解できるようにスケッチする。そ の際、血管との関係に注意する。
5/28	木	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 助教 阿久津 仁美 助教	組織学実習 14 泌尿器系（腎） 1. 腎の構造 それぞれの構造の構成細胞を観察・ 同定し、細胞と組織の構造の特徴を 図解できるようにスケッチする。そ の際、血管との関係に注意する。
6/2	火	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 助教 阿久津 仁美 助教	組織学実習 15 泌尿器系Ⅱ（尿管と膀胱） 1. 尿路と膀胱の構造 それぞれの構造の構成細胞を観察・ 同定し、細胞と組織の構造の特徴を 図解できるようにスケッチする。
6/4	木	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 助教 阿久津 仁美 助教	組織学実習 16 男の生殖器Ⅰ 1. 精巣の構造 それぞれの構造の構成細胞を観察・ 同定し、細胞と組織の構造の特徴を 図解できるようにスケッチする。そ の際、血管との関係に注意する。
6/9	火	1	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 助教 阿久津 仁美 助教	PBL「発生の異常」2 SGL

6/9	火	2	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 助教 阿久津 仁美 助教	PBL「発生の異常」3 SGL
6/9	火	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 助教 阿久津 仁美 助教	組織学実習 17 男の生殖器Ⅱ 1. 精路の構造 2. 陰茎の構造 それぞれの構造の構成細胞を観察・同定し、細胞と組織の構造の特徴を 図解できるようにスケッチする。その際、血管との関係に注意する。
6/11	木	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 助教 阿久津 仁美 助教	組織学実習 18 女の生殖器Ⅰ 1. 卵巣の構造 2. 子宮の構造 それぞれの構造の構成細胞を観察・同定し、細胞と組織の構造の特徴を 図解できるようにスケッチする。その際、血管との関係に注意する。
6/16	火	1	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 助教 阿久津 仁美 助教	PBL「発生の異常」SGL グループ発表
6/16	火	2	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 助教 阿久津 仁美 助教	PBL「発生の異常」SGL グループ発表
6/16	火	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 助教 阿久津 仁美 助教	組織学実習 19 女の生殖器Ⅱ 胎盤の構成細胞と構造を観察・同定し、 図解できるようにスケッチする。
6/18	木	4	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 助教 阿久津 仁美 助教	組織学実習 20 皮膚・感覚器 皮膚を構成する組織とその構成要素の 観察・同定・スケッチ
6/23	火	2	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野 細胞生物学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 助教 阿久津 仁美 助教	組織学実習 21 視覚器 視覚器を構成する組織とその構成要素の 観察・同定・スケッチ
6/25	木	2	人体発生学分野 細胞生物学分野 人体発生学分野	人見 次郎 教授 齋野 朝幸 教授 木村 英二 助教	組織学実習 22 平衡聴覚器 平衡聴覚器を構成する組織とその構

			細胞生物学分野	阿久津 仁美 助教	成要素の観察・同定・スケッチ
--	--	--	---------	-----------	----------------

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	標準組織学 各論 4版	藤田恒夫、藤田尚男 著	医学書院	2010
教	人体解剖学：Human Anatomy 改訂42版	藤田恒太郎 著	南江堂	2003
教	ラングマン人体発生学 10版	T. W. Sadler 著、安田峯生 訳	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2010
教	入門組織学 改訂第2版	牛木辰男	南江堂	2013
教	標準組織学 総論 4版	藤田恒夫、藤田尚男 著	医学書院	2002
推	カラーアトラス 組織・細胞学	岩永敏彦 著	医歯薬出版	1990
推	解剖学総論 / 運動器系 2版 (プロメテウス解剖学アトラス)	Michael Schünke ほか著、坂井建雄、松村譲児 監訳	医学書院	2011

・成績評価方法

試験の成績が80%（筆記および口頭による試験）、実習（PBLを含む）の評価（個人が提出した実習記録（スケッチ）とレポートを点数化）が20%の割合で評価する。尚、試験の範囲はSBOに記載されたものとする。また、授業の单元ごとに小テストを課す場合がある。実習の欠席は重く判定する。欠席する場合、きちんとした理由がない場合認めないので理由書を提出すること。なお、講義・実習への出席が規定の出席数に達しない場合は原則として、試験の受験資格は無い。

・特記事項・その他

既に1年次に履修した細胞生物学・基礎組織学では、形態・機能・物質の3要素を常に一体化して勉

強したことからもわかるように、生命科学においては多方面の分野の統合化が求められている。人体のどこにどのような器官（特定の機能を果たす構造単位）が含まれるか、またそれはどのような機能を果たしているかを学ぶのが系統解剖学であり、器官の基本的構造である細胞と間質が寄り集まってできている組織の構造と機能を学ぶのが組織学である。また、生命体の構造的成り立ちを理解するのが、発生学である。系統解剖学、組織学、発生学、と別れていた三領域を統合して、器官・系ごとに系統的に講義と実習をおこなうのが、器官解剖学である。また、器官解剖学は、臨床画像診断と密接に関わり合いを持つことから、実際の解剖実習に先立ち、Virtual Dissection（仮想解剖）をおこなう。解剖学的位置関係の把握が、臨床医学において如何に重要かを認識したうえで臨床解剖学へ進む。また病気の発生機転を学ぶ病理学では、正常組織を理解していることが前提となっていることから、先行して組織学実習をおこなう。

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習	PC 画面投影装置	2	講義
実習	ノートパソコン	2	講義
実習	骨標本	130	実習
実習	Zeiss 顕微鏡	130	実習